



多様な性への理解と対応 ハンドブック

～ちがいが尊重される長崎県をめざして～



はじめに



近年、LGBTをはじめとする性的少数者に関して、ニュースや情報に触れる機会が増えてきました。しかし、皆さんの中で実際に性的少数者を身近に感じている人はどれくらいいるのでしょうか？

性的少数者の方々は、このまちで、今日もあなたと共に暮らしています。もし、あなたが「当事者に出会ったことがない」と思っているとしたら、あなたの周りに、性的少数者はいないのではなく、言えない、言わない、様々な思いや事情を抱えているのかもしれませんが。住み慣れた地域で、自分らしく暮らしていきたいと願う人々がいます。

長崎県では、性的少数者の支援団体と協働し、性の多様性の理解促進と対応例などをまとめたハンドブックを作成しました。このハンドブックを通して、「多様な性のあり方を知る」ことで性の多様性を認め合い、一緒に暮らすためのヒントが見つければ幸いです。



性の多様性ってなんだろう？

性というのは、「男」「女」だけではなくて、一人ひとり違った性のあり方が存在するんだ



どうしていま知る必要があるの？

この社会の中には、性のあり方によって、生きづらさを抱えている人もいるんだ。みんなが自分らしく生きていくために、このハンドブックを通して、一緒に多様な性について考えてみよう！！



6色(赤、橙、黄、緑、青、紫)のレインボーカラーは、多様な性のあり方への理解と共感を表すシンボルとして広く認識されています。



目次

1	多様な性のあり方	
	性の多様性とは -----	1
	性的少数者とは -----	1
	SOGIとは -----	1
	日本における性的少数者の割合？ -----	2
	困難な立場に置かれている性的少数者 -----	2
	性的少数者を取り巻く世界の状況 -----	2

2	用語解説	4
---	------	---

3	性的少数者に関する県実施アンケートの主な結果	6
---	------------------------	---

4	大切にしたいこと	
	肯定的な言葉を使う -----	9
	カミングアウト&アウティング -----	9

5	暮らしにおける現状と対応	
	医療機関・福祉施設において -----	10
	学校において -----	11
	職場において -----	12
	ホテルやお店などにおいて -----	13
	災害時において -----	14

6	県内の性的少数者の声	15
---	------------	----

7	アライについて	17
---	---------	----

8	パートナーシップ制度について	18
---	----------------	----

9	おすすめの映画・書籍・教材	19
---	---------------	----

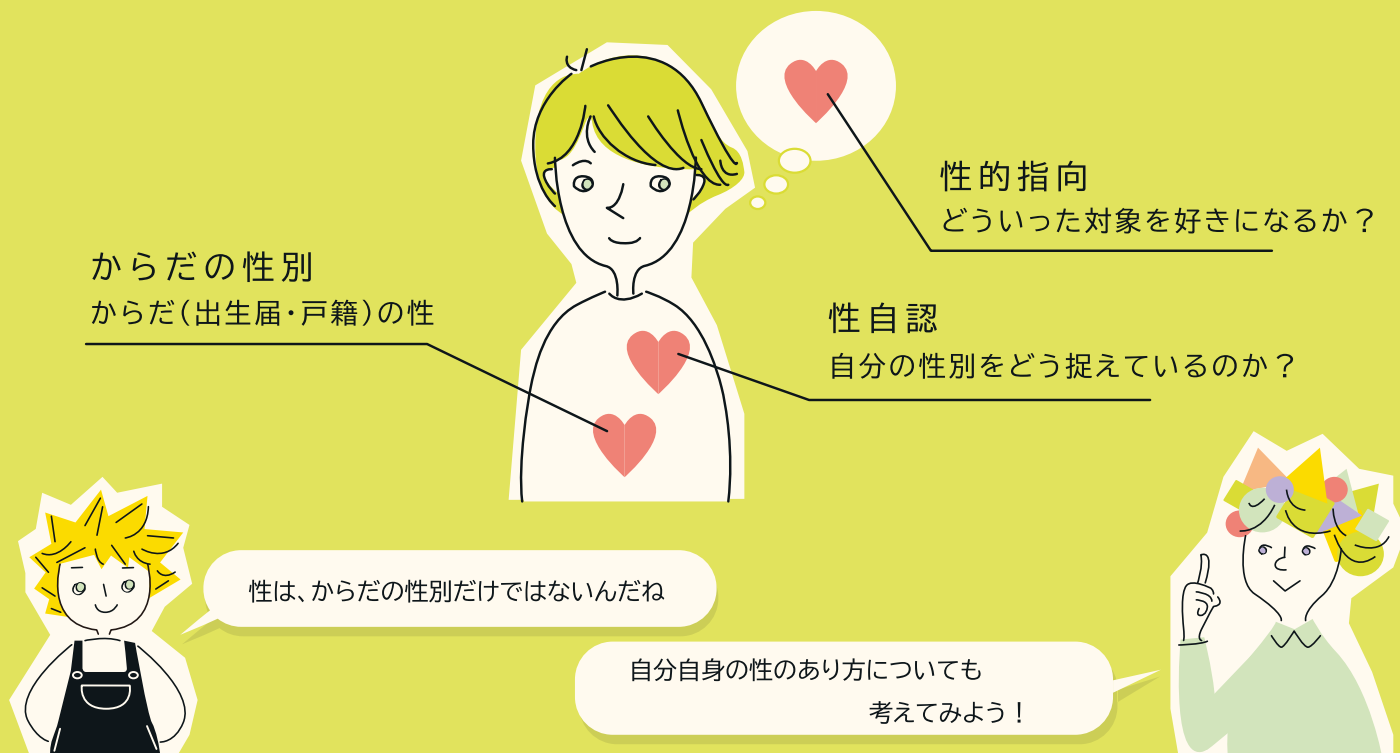
10	相談窓口等一覧	20
----	---------	----



多様な性のあり方

性の多様性とは

性のあり方はとても多様です。性のあり方を理解するときに、次の3つの要素で考えることができます。



上の3つの要素の組み合わせによって、様々なセクシュアリティ(性のあり方)が存在します。

【レズビアン】Lesbian
女性として女性を好きな人



【ゲイ】Gay
男性として男性を好きな人

【バイセクシュアル】Bisexual
異性を好きになることもあれば、同性を好きになることもある人

【トランスジェンダー】Transgender
生まれたときに割り当てられた性別とは異なる性別を生きる人(性同一性障害を含む)

【シスジェンダー】Cisgender
性別に違和感のない人

【ヘテロセクシュアル】Heterosexual
異性を好きになる人

その他にも、性的指向や性自認がはっきりしない人、決めなくなかったり、わからなかったり、悩んだりしている人や、自分を男性・女性のいずれとも認識していない人などもあります。

性的少数者とは

「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」など、性のあり方が少数派の人々を広く表す総称です。また、LGBT、性的マイノリティ、セクシュアルマイノリティとも呼ばれています。

SOGIとは

性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字をまとめて、SOGI(ソジ)と表現されます。性的少数者の方もそうでない人も、みんなが多様な性の当事者です。

日本における性的少数者の割合？

国や民間の研究機関などによる日本での性的少数者に関する統計データがいくつか出ていますが、調査方法や性的少数者の定義にもばらつきがあり、性的少数者の割合に差異が見られます。

大切なのは数字の多少ではなく、確実に性的少数者の方が身近にいるのだという感覚と、性の多様性を理解、尊重していく人権意識を持つことです。

(統計データ例)

- ★電通ダイバーシティラボ「LGBT調査2018」=LGBT層(性的少数者)8.9%
- ★国立社会保障・人口問題研究所「大阪市民の働き方と暮らしの多様性と共生にかんするアンケート」(2019年)=LGBT(A(LGBT+Aセクシュアル))3.3%
※LGBT(A)に「決めたくない・決めていない」を加えると8.2%
- ★LGBT総合研究所「LGBT意識行動調査2019」=LGBT・性的少数者 10.0%

困難な立場に置かれている性的少数者

現在、私たちの日常生活の中では「ホモ・オカマ・レズ」など多様な性に関して否定的な言葉や、男女はこうあるべきという規範(ジェンダーバイアス)などがあふれています。差別や偏見が根強く、当事者の約7割がいじめを経験しているという調査結果(※1)や、異性愛者の男性と比べ、さまざまな生きづらさを抱えやすい、ゲイ、バイセクシュアルの男性の自殺未遂リスクは、その約6倍との調査結果があります(※2)。また、性同一性障害の当事者の約6割は自殺を考えた経験があるとの調査結果もあります(※3)。国においては、自殺総合対策大綱(2012年改正)の中で、性的少数者の自殺対策について「自殺念慮の割合等が高いことが指摘されている性的マイノリティについて、無理解や偏見等がその背景にある社会的要因の一つであると捉えて、理解促進の取組を推進する。」と言及しています。

(出典)

- ※1 「2014年:LGBTの学校生活調査 いのち リスペクト。ホワイトリボン・キャンペーン」
- ※2 日高庸晴 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策事業「ゲイ・バイセクシュアル 男性の健康レポート 2015」
http://www.health-issue.jp/Health_Report_2015.pdf
- ※3 【封じ込められた子ども、その心を聴く 性同一性障害の生徒に向き合う】(岡山大学ジェンダークリニック:性同一性障害の患者1167人対象調査)

性的少数者を取り巻く世界の状況

2019年の
米語大賞は “they”

“he”(彼)とも“she”(彼女)とも呼ばれたい人を目指す時に“they”を三人称単数で使うことで、その人の性のあり方を尊重する流れが広がり、アメリカを代表する辞書のひとつ、「メリアム・ウェブスター辞典」が2019年の米語大賞に選出しました。

「性同一性障害」
がなくなる？

世界保健機関(WHO)では、「性同一性障害」が、「国際疾病分類」のICD-10の中で「精神及び行動の障害」として分類されていました。しかし、2018年6月に最新版ICD-11を公表し「性保健健康関連の病態」に分類され、“Gender incongruence(性別不合(厚生労働省仮訳))”という名称に変わることになりました。つまり、生まれたときに決められた性別に対する違和感は、「精神の障害ではない」ということが、国際的に示されたということです。

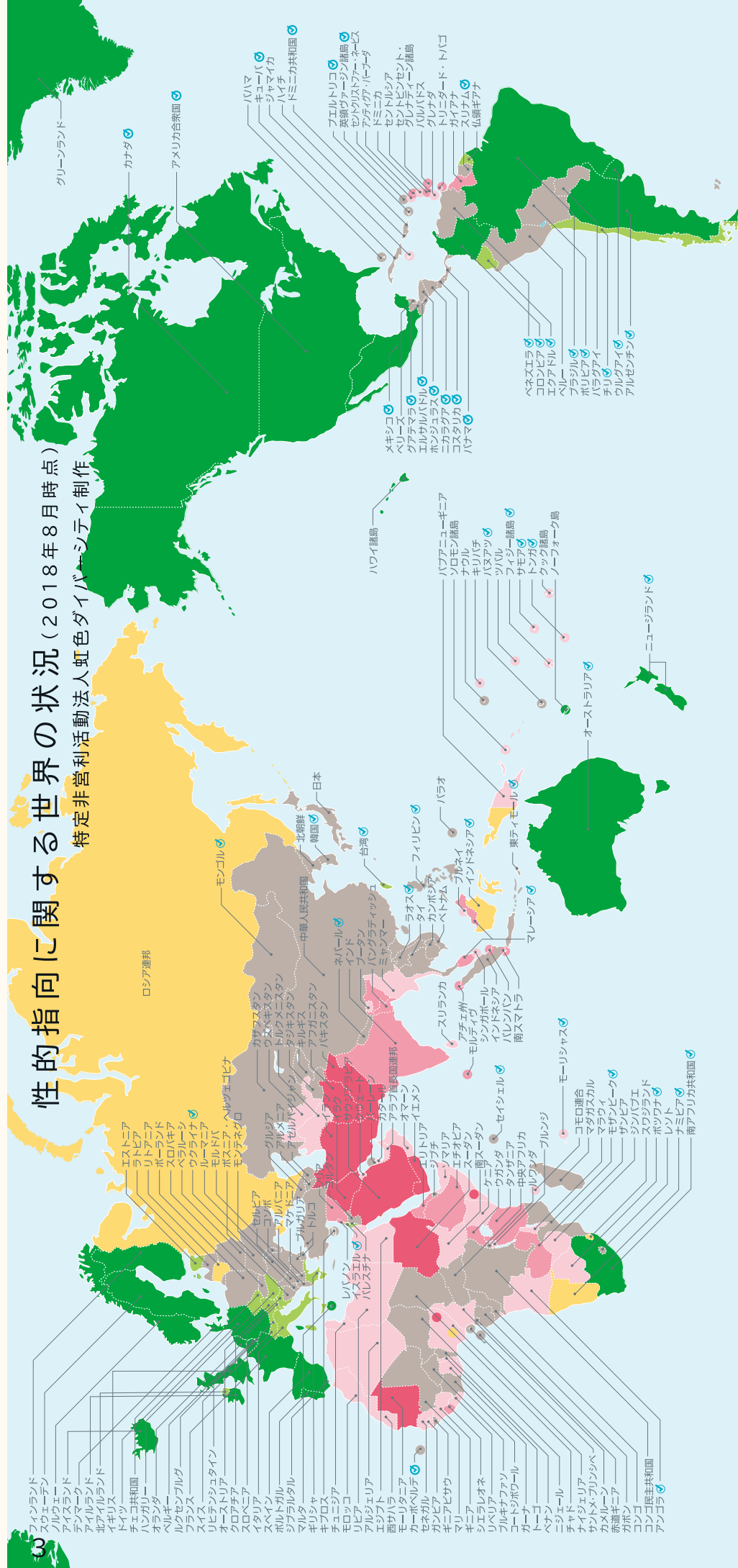
※国際疾病分類(ICD)とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関(WHO)が作成した分類です。

日本では
「~ちゃん」「~くん」ではなく、
「~さん」がベストだね!



性的指向に関する世界の状況 (2018年8月時点)

特定非営利活動法人虹色ダイバーシティ制作



性的指向に関する世界地図

性的指向に関する法律は、国によって違う状況です。同性間の関係を犯罪とみなす法律がある国もあり、死刑や禁固刑などが適用される場合もあります。一方で、法による保護も広がっています。憲法によって法の下の平等が保証されている国、雇用の場などでの差別禁止法がある国、LGBTへの差別的言動がヘイトクライムと見なされる国もあります。2001年にオランダで同性間の婚姻が可能になり、2013年にはイギリス、フランス、2015年にアメリカ、2017年にはドイツ、オーストラリアで同性間の婚姻が可能になりました。現在、G7で国レベルの同性パートナーへの法的保障がないのは日本のみとなっています。日本は、同性間の関係は犯罪ではありませんが、包括的な差別禁止法はなく、同性間では婚姻もできない国であり、国連人権理事会などから人権侵害であると指摘を受けている状況です。

犯罪化・迫害	パートナー関係の承認	保護法
<ul style="list-style-type: none"> 死刑 8カ国 禁固刑 14年～終身 14カ国 禁固刑 最大14年 57カ国 プロバガンダ禁止法 3カ国 特定の法律なし 	<ul style="list-style-type: none"> 婚姻 25カ国 婚姻とほぼ同等の代替制度 27カ国 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの国の中で半分以上の地域が平等な婚姻を認めている場合は、その国は濃い緑色(婚姻)で表示されています。

この地図は「性的指向に関連する世界の法律」ILGA2017を参考に、2018年8月までに同性婚が成立した国を加味して、虹色ダイバーシティで制作しました。ご協力いただいた皆さまに感謝します。
 International Lesbian, Gay, Bisexual, Trans and Intersex Association: Carroll, A. and Mendos, L.R. State-Sponsored Homophobia 2017: A world survey of sexual orientation laws: criminalisation, protection and recognition (Geneva, ILGA, May 2017).
 2018年8月時点 [制作] 特定非営利活動法人 虹色ダイバーシティ [協力] 虹色PRパートナー



用語解説

セクシュアリティ (Sexuality)	性のあり方のこと。性に関する意識や行動。
性的少数者	「レズビアン」「ゲイ」「バイセクシュアル」「トランスジェンダー」など、性のあり方が少数派の人々を広く表す総称。また、LGBT、性的マイノリティ、セクシュアルマイノリティとも呼ばれている。
性自認 (Gender Identity)	からだの性別に関わらず、自分の性をどう考えているのか。
性的指向 (Sexual Orientation)	どういった対象を好きになるのか。
生物学的性(Sex)	からだの性別。戸籍上の性別。
SOGI	性的指向(Sexual Orientation)と性自認(Gender Identity)の頭文字をまとめて、SOGI(ソジ)と表現される。性的少数者もそうでない人も含めて、全ての人が多様な性の当事者であることに焦点を当てた言葉。
レズビアン(Lesbian)	性自認が女性で、女性を好きになる人の総称。
ゲイ(Gay)	性自認が男性で、男性を好きになる人の総称。
バイセクシュアル (Bisexual)	男性・女性どちらも恋愛の対象になる人の総称。
トランスジェンダー (Transgender)	生物学的に割り当てられた性別に違和感を持ち、異なる性を生きていきたいと考えている人の総称(性同一性障害を含む)。
性同一性障害 (GID:Gender Identity Disorder)	身体的な性別に不快感、違和感などを持ち、身体を変え、反対の性で生きることを強く望むことを指す、医学的な疾患名。
MtF (Male to Female)	男性として生まれ、性自認が女性の人。
FtM (Female to Male)	女性として生まれ、性自認が男性の人。
シスジェンダー (Cisgender)	性自認の性別と生物学的性が一致している人。
ヘテロセクシュアル (Heterosexual)	異性愛者。性的指向が異性に向いている人。
性分化疾患 (DSDs: Differences of Sex Development)	「染色体や性腺、外性器の形状、膣・子宮などの内性器、性ホルモンの産生などが、男性ならばこういう体の構造でなければならない、女性ならばこういう体の構造でなければならないとされる固定観念とは、生まれつき一部異なる発達を遂げた体の状態」を表す。





用語解説

Aセクシュアル (A sexual)	恋愛感情を持たない人、または性的欲求そのものがない人。
Xジェンダー (X gender)	性自認が、男性・女性に当てはまらないと感じている人。自身の性別が不定形であることを、中性・両性・無性・不定性等と表現する人たちもいる。
パンセクシュアル (Pansexual)	男性・女性の性別にこだわらず、性的指向が、様々な性のあり方の人に対して向かう人。全性愛と訳される。
ノンバイナリー (Nonbinary)	男性・女性の性別に当てはまらない性のあり方。
クエスチョニング (Questioning)	自分の性的指向や性自認がわからない、はっきりしていない人。
アライ(Ally)	性的少数者に理解のある人。理解者、支援者、応援者のこと。 Alliance(同盟・提携)が語源。
カミングアウト (Coming out)	自分自身の性自認や性的指向を表明すること。
アウトティング (Outing)	本人の承諾なく、その人がセクシュアリティを他の人に暴露する行為。命に関わるおそれもある。

✓ このハンドブックにも記載されていない、多様な性のあり方、表現がたくさんあります。大切なのは、言葉をたくさん知っていることよりも、今、目の前にいる人がどんな思いなのか、自分自身がどう寄り添っていけるかを想像することです。

✓ セクシュアリティを決めるのは、ほかでもない自分自身です。ほかの人の性を勝手に決めつけないようにしましょう。支援をする際には、その人が自分自身で自分の性のあり方を決定できるように情報を共有する、支援機関や交流会などの紹介をするといった方法もあります。

✓ 性的少数者を取り巻く状況は変わっていきます。言葉が持つ意味やニュアンスも変化していきますので、その都度、確認・更新をしていきましょう。

